

よえもん

2016年12月

第44号

今月のことば



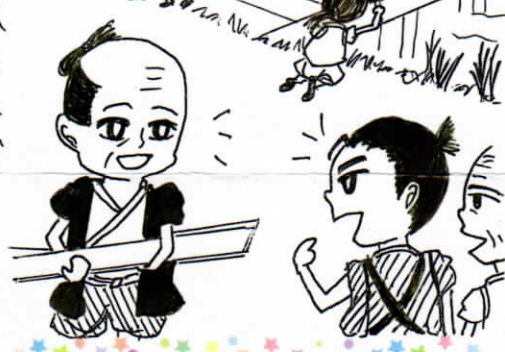
シリーズ
よえもん

～伝わる話～
村の人のために



中江藤樹は村の人たちと共に生きた人でした。藤樹は偉大な学者でありましたが、それだけではなく、後世の人々の心に残ることはなかったでしょう。些細であっても村人の美しい行いは藤樹の喜びとなりました。また汗を流して働き、親に仕え、家族を大切にす村人たちが藤樹は心から愛し敬っていました。時に悪いことをする者がいても「本当の姿に帰れ。」とロビリ、悪に強い者は善にも強いのだ。心を入れ替えたら、たくさんの方が救われるよ。」と励ますのでした。「藤樹先生行状」には、その頃の藤樹のことを「先生の心はさっぱりしてわたがまりがなく、人に愛敬の心を持って接した。だから先生といると周りの人たちは、ゆったりくろぎ楽しくなるのだった。」と記しています。

また、次のような話も伝えられています。寒さの厳しいある冬のことで。真冬でも素足で冷たい川を渡っている村人を見て、何とかしてあげられないかと藤樹は門人や名主と話し合いました。「まことに気の毒なことだ。みなで橋を架けたらどうでしょう。」と川に木の橋を架けることになりました。「藤樹先生が橋を架けようとおっしゃっておいでだ。」と噂はたちまち広まって作業を手伝おうとする者たちが押しかけてきました。それから幾日も経たないうちに橋ができてしまったのでした。



「論語」子張第一九

書・淵田瑞穂さん

小人の過つや
必ず文る

「立派な人は、何のあやまちをした時には過ちは過ちとして認め、それを決してはばからないで、すぐに改めます。しかし、教養のない人は何のあやまちをすると、これはたれそれがこうしたからだとか、こういう事情があったからだとか、いろいろ言い訳をして、自分のあやまちではなかったかのようにいいまわそうとします。」という意味です。

= 出典 財団法人
新教育者連盟 =

* 記念館だより *

休館日のお知らせ

今年も残すところあとわずかになりました。この1年地域の人をはじめたくさんの方々にお世話になり、ありがとうございました。勝手ながら記念館は12月29日(木)から平成29年(1月3日(火)まで休館させていただきます。1月4日(水)午前9時から通常開館しますので、来年もどうぞ、よろしくお願い致します。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330